

2025年度 奨励研究

学生のコンピテンシー測定結果に基づく DP の改訂

岩崎有朋・教務課

○目的：学生の現状や社会情勢を含んだ本学の改訂版全学 DP を作成する。

現行の全学 DP には内容的に重複する部分も多く見られ、4 年間の学生の成長を測る評価軸として DP を活用することが難しい。そのため、外部テストを用いて学生のコンピテンシーを測定し、DP との関係性の視点で評価する。そのうえで、改訂版 DP（卒業認定・学位授与の方針）を作成し、教育の質保証の主軸となるようにする。そのために、次のフェーズのとおり実施した。

フェーズ 1：本学の学生のコンピテンシーを測定し、成長点と課題点を抽出

Ai Grow（コンピテンシー測定テスト）の項目と本学 DP の関係性を整理する（表 1）。

表 1：現行 DP と Ai Grow のコンピテンシーの関係（全 25 項目→関連する 16 項目に絞り込み）

分野	コンピテンシー	DP1 専門知識・技能を 活用する力	DP2 コミュニケーション能力	DP3 課題を発見し、解決する力	DP4 多様性の理解と協働する力	DP5 能動的に学び続ける力	DP6 社会に貢献する姿勢
認知	課題設定	○		◎		○	
	解決意向	○		◎		○	
	論理的思考	◎	◎	○			
	創造性	◎	○	○			
自己	個人的実行力			○		◎	
	ヴィジョン					◎	○
	成長					◎	
	耐性			○		◎	
	決断力	○		◎			
他者	表現力		◎				
	共感・傾聴力		○		◎		
	柔軟性		○		◎		
	影響力の行使		○		◎		
コミュニティ	組織への働きかけ				◎		○
	地球市民				○		◎
	誠実さ				○		◎

◎関連が強い、○関連があるという 2 つの指標で評価し、結果として Ai Grow の全 25 のコンピテンシーのうち、16 項目まで絞り込んだ。これを受けて、Ai Grow によるテストでは表 1 の 16 項目のコンピテンシーを測定することとした。

フェーズ 2：Ai Grow による学生のコンピテンシー測定

・受検期間 6 月 30 日～7 月 22 日

- ・対 象 者 各学部から４年生１０名（GPA 上位層・中位層からランダム抽出）
各学部の推薦４年生５名（学部として望ましい姿の学生）
合計４５名
- ・受検実数 ３４名（76%）
うち他者評価対応無しを含む ３４名・・・補正なし（自己評価のみ）
うち他者評価（１～３人） ２３名・・・補正有り（１名のみの他者評価は不安定要素）
うち３名の他者評価完了 １７名・・・完全補正済み

フェーズ３：Ai Grow の結果集計

受検結果を集計パターン別に表２のとおり整理し、比較した。サンプル数は少なくなるが、３人の他者評価を行い、補正済みの数値として導出されたパターンＣの値をこのあとの操作では使うこととした。

表２：Ai Grow の集計パターン別の結果比較表

集計パターン	対象人数	課題設定	解決意向	論理的思考	創造性	個人的実行力	ヴィジョン	成長	耐性	決断力	表現力	共感・傾聴力	柔軟性	影響力の行使	組織への働きかけ	地球市民	誠実さ
A	34	74.0	72.1	67.4	63.8	78.5	64.9	77.6	72.6	79.0	64.6	89.1	68.7	66.0	67.8	58.2	68.8
B	23	72.8	74.2	70.6	71.0	77.4	68.0	76.0	70.7	74.7	69.3	75.4	68.6	65.2	70.1	58.8	65.3
C	17	71.1	72.8	68.1	69.4	75.4	65.6	73.4	69.8	72.0	67.8	72.3	68.9	65.2	69.3	58.6	63.1

パターン A：自己評価のみ

パターン B：他者評価（１名～３名）の補正有り ※１名の他者評価は信頼度は低い

パターン C：他者評価（３名完遂）の補正有り ※他者評価も含めて補正した精度の高い結果

次に、表１の現行 DP とコンピテンシーの関係に、４年生の抽出学生の結果を加え、再度評価を行った（表３）。

表３：現行 DP と 16 のコンピテンシー(Ai Grow) の関係評価表 （n=17 ※他者評価を含む補正済み数値）

コンピテンシー		平均値	DP1 専門知識・技能を活用する力	DP2 コミュニケーション能力	DP3 課題を発見し解決する力	DP4 多様性の理解と協働する力	DP5 能動的に学び続ける力	DP6 社会に貢献する姿勢
認知	課題設定	71.1	○		◎		○	
	解決意向	72.8	○		◎		○	
	論理的思考	68.1	◎	◎	○			
	創造性	69.4	◎	○	○			
自己	個人的実行力	75.4			○		◎	
	ヴィジョン	65.6					◎	○
	成長	73.4					◎	
	耐性	69.8			○		◎	
	決断力	72.0	○		◎			
他者	表現力	67.8		◎				
	共感・傾聴力	72.3		○		◎		
	柔軟性	68.9		○		◎		
	影響力の行使	65.2		○		◎		
コミ	組織への働きかけ	69.3				◎		○

ユニ テ ィ	地球市民	58.6				○		◎
	誠実さ	63.1				○		◎
		概要	・論理的思考と創造性が中程度 ・決断力と解決意向が比較的高く、実践的な活用能力は良好	・共感・傾聴力は良好だが、表現力がやや弱い ・受信能力は高いが、発信能力の強化が必要	・解決意向と決断力が高く、問題解決への意欲は強い ・個人的実行力も高く、実行面での強みあり	・共感・傾聴力は高いが、影響力の行使と柔軟性が低い ・他者理解はできるが、協働での実践力に課題	・個人的実行力と成長が高く、学習意欲は強い ・ヴィジョンが低く、長期的な目標設定に課題	・地球市民が最も低く、社会的視野の拡大が急務 ・誠実さも低く、倫理観の醸成が必要
: ~70 : 69~65 : 64~60 : 59~								

抽出学生の結果より、認知の分野に関しては数値が高く、特に状況を把握しながら解決に必要な計画や方法を自ら考えて取り組む能力をもっているといえる。さらに主体的に物事に取り組み、その行動が自分の成長にもつながっているとの認識もある。また、他者との関わりの中で、相手の話を聞こうとする傾聴力も高い。

一方で、コミュニティの分野の数値は他の分野に比べて低い傾向にある。特に本学は国際大学で、様々な要素を比較した大学ランキングでも北海道の私大トップの評価を得ているが、制度としての国際大学の姿と、学生の実態という点では改善の余地があると思われる。

フェーズ4：改訂版 DP の作成

現行の DP は内容についての重複が多い。例えば「主体性」は DP 2～DP 6 までの 5 つの DP にそれぞれ要素として挙げられている。他の「思考力」「多様性」といった要素も、同様に複数 DP に要素として含まれている。結果、主体性を評価しようにも、それはどの DP に係ることなのか不明瞭になってしまう。そのため各 DP として到達したのかどうかの判断もつけられない。

本学 DP に対して、学生個々がどのような成長を示しているのかを評価することは、学生が自分の強みを知ることになると同時に、その具体は就職活動場面での自分のアピールポイントにもなる。また日々の生活においても、自己肯定感を高める要因にもなると考える。

更に、教育の質保証の視点では、学生一人ひとりの成長の把握、大学全体の資質・能力の傾向把握といったことにつながる。ただし、このようなことは経年変化の蓄積が必要であり、そのためにも今回は DP を改訂し、いち早く本学教育の方向性を共有する必要がある。

改訂版の作成にあたっては次のようなポイントで作成する。

- ① DP の内容および関連するコンピテンシーの重複を避ける
- ② DP の内容を端的に表現するネーミングにする
- ③ 端的なネーミングを補う、説明的文章を示す
- ④ 説明的文章が実現している姿を表す補足文章を複数挙げる
- ⑤ その DP に関連する中核コンピテンシーも合わせて示す

作成した改訂版 DP は、次の表 4 のとおりである。

表 4：改訂版 DP とコンピテンシーの関連表

DP	DP の具体的内容	中核コンピテンシー
DP1：知識創造力 (Knowledge Creation)	専門知識を基盤に、論理的かつ創造的に新たな価値を生み出す力 ・各分野の専門知識・技能を体系的に修得し、実践的に活用できる ・論理的思考により課題の本質を見極め、創造的な解決策を提案できる ・文理融合的な視点から、複雑な問題に対して統合的にアプローチできる	・論理的思考 ・創造性、 ・課題設定
DP2：自己変革力 (Self-Innovation)	明確なビジョンを持ち、継続的に自己を成長させる力 ・自らの将来像を描き、そこに向かって計画的に行動できる ・困難な状況でも粘り強く取り組み、失敗からも学び、成長できる	・個人的実行力 ・成長、 ・ヴィジョン

	・生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と実行力を持つ	
DP3：協働実践力 (Collaborative Practice)	多様性を尊重し、他者と協働して成果を創出する力 ・相手の立場を理解し、自分の考えを効果的に伝えることができる ・異なる価値観を持つ人達と建設的関係を築き、チームで成果を生み出せる ・状況に応じて柔軟に対応し、組織に良い影響を与えることができる	・表現力 ・共感・傾聴力 ・柔軟性
DP4：社会共創力 (Social Co-creation)	地域と世界の課題解決に主体的に取り組む力 ・地域社会の課題を自分事として捉え、解決に向けて行動できる ・グローバルな視野を持ち、持続可能な社会の実現に貢献できる ・産官学民と連携し、新たな価値を共創できる	・組織への働きかけ ・解決意向
DP5：市民的責任力 (Civic Responsibility)	地球市民として社会的責任を自覚し、持続可能な社会の実現に貢献する力 ・高い倫理観と誠実さをもって、責任ある判断と行動ができる ・地域社会の一員として主体的に課題解決に取り組み、公共の利益に貢献できる ・日本と世界の文化を尊重し、国際社会における市民的責任を果たすことができる	・地球市民 ・誠実さ

すべて〇〇力という形で統一し、そのネーミングを補足する説明的文章も加えた。さらに、その説明的文章の具体的な姿も3つずつ示している。

改訂版 DP 作成の方針の中で、内容の重複を避けるとある。DP 4 と DP 5 には持続可能な社会とあるが、DP 4 は環境や経済的側面での扱いである。一方で、DP 5 については、倫理・文化の側面での扱いである。

中核コンピテンシーは、Ai Grow で測定できるコンピテンシーである。表中のコンピテンシーは、各 DP との関係性が強いものだけに絞り込んである。これらのコンピテンシーを測定することで、それに関連する DP の到達度を評価することができる。

フェーズ 5：改訂版 DP の裏付け

次に改訂版 DP が本学の教育理念や質保証の観点とどのように繋がりががあるのかを示す（表 5、表 6）。

表 5：建学の精神との関連性

建学の礎	DP との関連部分
真理を探ね、自由を愛し、自らを省みる自立した人間を育成する。	・「真理を探ね、自由を愛し」 →DP1（知識創造力） ・「自らを省みる自立した人間」 →DP2（自己変革力）
理想を求め、明日の地域社会を拓く創造性豊かな人間を育成する。	・「明日の地域社会を拓く」 →DP4（社会共創力）
日本人としての自覚と誇りを持ち、自らの責任において行動する国際人を育成する。	・「日本人としての自覚と誇り」 →DP5（市民的責任力）

表 6：第 2 期中期目標への対応

重点施策	主要対応 DP	具体的な関連性
【A】教育改革の推進 ・クォーター制の定着化 ・105 分授業による新カリキュラム ・学生の主体的な学び支援	DP2：自己変革力 (◎) DP1：知識創造力 (○)	・主体的な学びの支援→自己変革力の「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と実行力」 ・新カリキュラムでの学修成果→知識創造力の向上 ・学修データの活用→自己の成長を可視化し、計画的な行動を促進
【B】国際交流の拡大 ・外国人留学生の受入れ拡大 ・日本人学生の派遣推進 ・国際化意識の醸成	DP5：市民的責任力 (◎) DP3：協働実践力 (○)	・国際化意識の醸成→市民的責任力の「地球市民として行動できる」 ・留学生との交流→協働実践力の「異なる価値観を持つ人々と建設的な関係を築く」 ・多文化理解→市民的責任力の「多様な文化や価値観を尊重」
【C】デジタル文系人材の育成 ・文理横断・融合教育 ・数理・DS・AI 教育 ・VR/AR を活用した学修体験	DP1：知識創造力 (◎) DP4：社会共創力 (○)	・文理融合教育→知識創造力の「文理融合的な視点から統合的にアプローチ」 ・AI・データサイエンス→論理的思考と創造性の融合 ・新技術の活用→社会共創力の「新たな価値を共創」

【D】地域貢献の推進 ・産官学連携の推進 ・地域社会向け講座の拡大 ・自治体/地元産業界との協働	DP4：社会共創力（◎） DP5：市民的責任力（○）	・産官学連携→社会共創力の「産官学民と連携し、新たな価値を共創」 ・地域課題解決→社会共創力の「地域社会の課題を自分事として捉え、解決に向けて行動」 ・地域への責任→市民的責任力の「責任ある行動」
【E】法人施策 1	—	—
【F】法人施策 2	—	—

※各重点施策への取組状況について、DP の達成状況を指標の一つとして用いることができる

また、表 6 を DP 視点で構成し直したものが次の表 7 である。

表 7：DP から見た第 2 期中間目標の重点施策との関連

DP	対応する重点施策	関連する教育内容
DP1：知識創造力	【A】教育改革（○） 【C】デジタル文系人材（◎）	・専門知識の体系的修得 ・文理融合的アプローチ ・論理的思考とデジタルスキル
DP2：自己変革力	【A】教育改革（◎）	・主体的学習の実践 ・キャリアビジョンの形成 ・継続的な自己成長
DP3：協働実践力	【B】国際交流（○）	・多様性理解と協働 ・コミュニケーション能力 ・チームワーク
DP4：社会共創力	【C】デジタル文系人材（○） 【D】地域貢献（◎）	・地域課題解決 ・産官学連携 ・イノベーション創出
DP5：市民的責任力	【B】国際交流（◎） 【D】地域貢献（○）	・グローバル市民意識 ・社会的責任 ・持続可能性への貢献

さらに、中教審で示された学士力と改訂版 DP との関係性についても表 8 として示す。

表 8：DP と学士力との関連（学士力については中教審 2008）

学士力の分野・項目	DP1 知識創造力	DP2 自己変革力	DP3 協働実践力	DP4 社会共創力	DP5 市民的責任力
1. 知識・理解					
(1)多文化・異文化に関する知識の理解	○		○		◎
(2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	◎			○	○
2. 汎用的技能					
(1)コミュニケーション・スキル			◎	○	
(2)数量的スキル	◎				
(3)情報リテラシー	◎			○	
(4)論理的思考力	◎			○	
(5)問題解決力	◎	○	○	◎	
3. 態度・志向性					
(1)自己管理能力		◎			
(2)チームワーク、リーダーシップ			◎	○	
(3)倫理観					◎
(4)市民としての社会的責任				◎	◎
(5)生涯学習力		◎			
4. 統合的な学習経験と創造的思考力					
獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを	◎	○	○	◎	

適用し、その課題を解決する能力					
-----------------	--	--	--	--	--

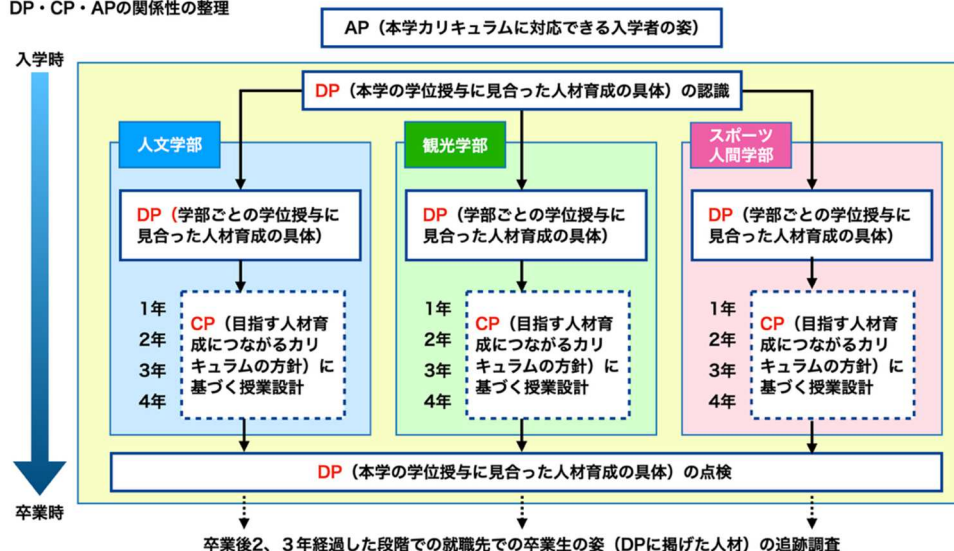
これらのことより、改訂版 DP は建学の礎、第 2 期中間目標、学士力それぞれとも関連があり、DP のいずれかが各要素を満たしていることが分かる。

以上をもって、改訂版全学 DP の提案とする。

今後のフェーズについて

このあとは、下図の関係性を意識して、学部ごとの DP を作成することになる。

DP・CP・APの関係性の整理



その際、この改訂版 DP およびこのあとに作成される学部 DP が形骸化しないためにも、次の 2 つの要点を踏まえる必要がある。これがブレると、全体の構造がツギハギの統一感のない建築物のようになる。

要点 1：5 つの DP の構造を活かしたまま、各学部の教育目標を踏まえた内容に修正する。

要点 2：5 つの DP に対して、学部独自の要素を加える。

これは学部の独自性を阻害するものではない。4 年間の大学教育を考えたとき、基盤教育部門では全学 DP を初年次からどのように身に付けるのかの視点に立って教育する。その上に、学部・学科の特色を組み込んだ学部 DP に基づく教育が行われる。そして、4 年間の大学生活において、学部・学科それぞれの色はあるにしても、大学教育の基本フレームは同じである。

そこで最後に課題として次の 2 点をあげる。

- ・全学 DP の構造で学部 DP を組み上げることの重要性を全教員が共通認識する機会の設定
- ・学部 DP が全学 DP のフレームで組まれていることの説明・確認する機会の設定（担当も）

学部の取り組みは尊重すべきだが、一方で丸投げになってしまい、開けてみるとフレーム構造が違っているでは取り返しがつかない。大学教育の質保証という観点からも、この部分はズレてしまわないように、臨時的チェック機関の設置なども含めて検討すべきと考える。

<添付資料>

- ・本研究によって作成された全学 DP 試案版を学内協議を経て全学 DP の最終版として完成させた。さらにこの DP に基づいて作成された CP、AP、学科別 DP、CP、AP も含めた全資料を添付する。